

大解剖！河村新城

I 築城 お城は、選地を経て、「地鎮」「縄張」「普請・作事」を行うことで完成しました。はじめに地鎮に関わる「鋤初」(くわぞめ)「鋤立」(くわだて)と呼ばれる儀式を行ったようです。

新城では残念ながら儀式を示す遺物は出土しませんが、方位に関して気になる遺構が検出されました。写真の C1 敷石は、山頂部の中心的な掘立柱建物 (C7 掘立柱建物) から、鬼門の方角にあたる北東の方角に位置します。方形に河原石を並べた小規模な遺構ですが、丁寧な作りが特徴です。



謎だわ

敷石遺構 (C1 敷石)

発掘調査では、曲輪とそれら曲輪を取りまく堀、地山を削り出した土塁、盛土などが確認されました。曲輪は山の頂上部分から斜面を段々畑のように削平して築かれています。特筆すべきは C8 曲輪を中心とした曲輪が C7 曲輪出入口部分の馬出 (うまだし) であったことが確認されたことです。馬出とは、これまでの研究から出入口部分の前の堀の対岸に設けられた出撃用の曲輪と定義されます。また、C7 曲輪は、尾根部分を削平後、曲輪北側の緩斜面をローム混じりの土で平らに整えています。土を盛ってでも平地を確保したかった場所なのでしょう。

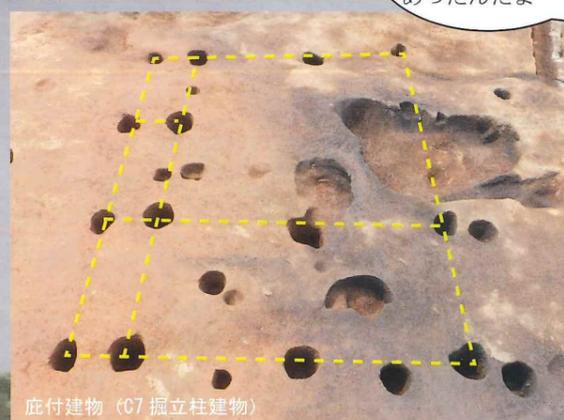
新城では、堀などのほか門や橋と考えられる遺構も確認されました。門について面白い点は、8つの柱穴でコの字に構成されたり、4つの柱穴で構成された四脚門であるなど、柱配置が同じではないところです。柱配置の違いは門の上部構造の違いにあるのかもしれません。

門限はあったのかしら



C2 門 (C12 掘立柱建物)

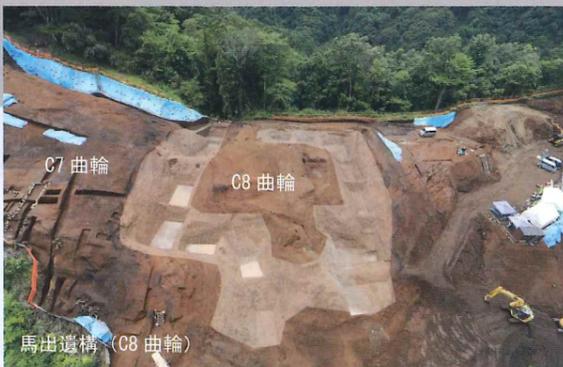
小田原城では朝 6 時開門、夕方 6 時閉門なんて記録もあったんだよ



庇付建物 (C7 掘立柱建物)



斜面に造られた曲輪 (C10 曲輪)



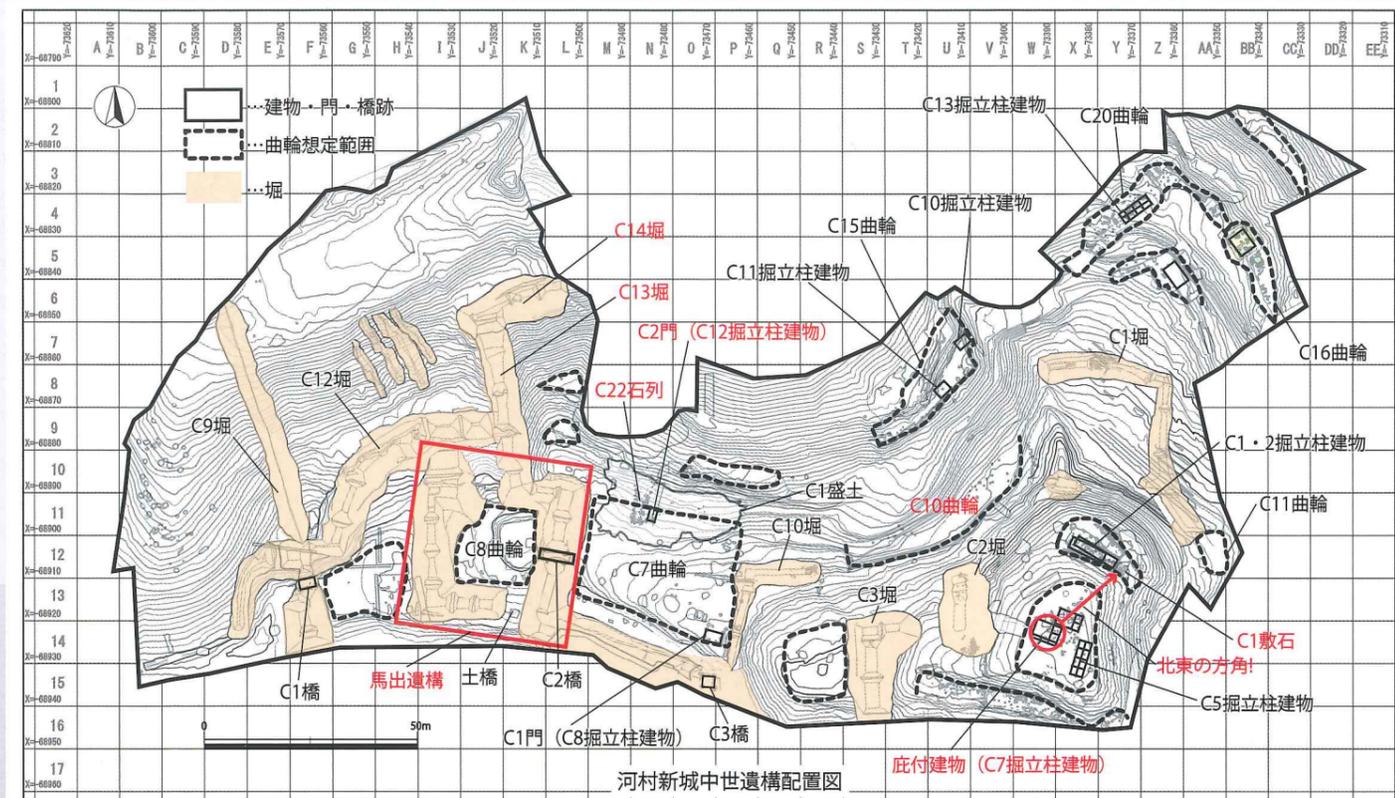
C7 曲輪 C8 曲輪

馬出遺構 (C8 曲輪)



城の北側を守る堀 (C13・14 堀)

建物で注目されるのは、山頂部で見つかった C7 掘立柱建物です。建物の南側に庇 (ひさし) とみられる柱穴が並列した作りです。家屋の本体部分は柱間が 2 間 × 3 間あります。冒頭で述べた C1 敷石はこの建物の北東方向にあります。屋敷と呼ぶには小規模ですが、中心的な建物の一つと考えられます。



河村新城中世遺構配置図

II 城での暮らし 山城での生活はどのようなものだったでしょうか？当時の様子がうかがわれる遺物について少しだけ紹介します。

器

出土した遺物は、陶磁器、土師器で、器種でみると碗、皿、甕、壺、鉢、すり鉢があります。炊事や食事をし、水や油など必要なものを蓄えていた様子がうかがえます。少量ですが、漆製品の破片も出土しました。



すり鉢出土状況 ※1

武器・武具

写真の銃弾は直径が約 12mm あり、重さは 6g ほどあります。当時の銃弾の規格で 2 匁 (もんめ) に近い数値です (1 匁 = 3.75g)。



銃弾出土状況 ※2

これまでの研究から小筒など口径の小さな銃に使われたと考えられます

兵糧

新城では、炭や灰が多く含まれた遺構も多く確認されました。一部を持ち帰って水洗し、フルイにかけて選別したところ、炭化したイネやムギ、魚骨などが多く発見されました。選別作業はまだ途中ですが、兵糧について重要な情報をもたらしてくれそうです。



炭化米

焼骨



すごく根気のいる作業ね



夢の中で炭の破片を数えていることもあったそうだよ

遊戯具

中世の絵画史料には、双六や囲碁などの盤上遊戯が描かれています。大人の遊びとして人気があったようです。新城でも基石と考えられる形の整った円礫が出土しました。お城では風紀を乱すという理由から、飲酒や双六、遊戯の類いがたびたび禁止されていました。新城で出土した基石が城兵の密かな楽しみであったのか気になるところです。



基石出土状況 ※3

裏面に続くよ

※ 1～3 は神奈川県教育委員会所蔵